

7) 冷媒追加封入

(1) 下表に従い、冷媒封入量を計算してください。

<シングル機>

| 容量 | 基準チャージ量 (kg) | 基準チャージ 配管長(m) | 冷媒配管(液管)1mあたりの 追加チャージ量(kg) | 工場出荷時 追加チャージ不要の 現地配管長さ(m) |
|--------------|-----------------|------------------|-------------------------------|---------------------------------|
| XP112, XP140 | 2.0 | 0 | 0.06 | 3.8 |
| XP224 液管 | φ9.52 φ12.7 | 3.6 | 0.12 | 5.4 |
| XP280 | | | | 30 |

●基準冷媒チャージ量は、冷媒配管長さ0m時の封入量を示します。

●室外ユニットは配管長30m相当分の冷媒量が工場出荷時に封入されており、30mまでは現地での追加チャージが不要です。それを超えた分については、配管長と上表より追加封入量を計算し追加封入してください。

●配管長が3mより短い場合は工場出荷時チャージ量より1kg減らしてください。

●既設配管を使用する場合は、液管サイズにより必要封入量が変わります。詳しくは「6. 既設配管対応」をご確認ください。

追加冷媒量計算式

| | |
|--------------|--|
| XP112, XP140 | 追加チャージ量(kg) = (主管長(m) - チャージレス分30(m)) × 0.06(kg/m) |
| XP224 | 液管 φ9.52 |
| XP280 | 液管 φ12.7 |

追加チャージ量(kg) = (主管長(m) - チャージレス分30(m)) × 0.12(kg/m) + 分岐管長(m) × 0.06(kg/m)

※追加冷媒量の計算結果が負の値になる場合は、追加チャージ不要です。

●再チャージを行う場合は冷媒回収後、上表の基準チャージ(0m) + 配管分を再チャージしてください。

(2) 冷媒封入

●R410A冷媒は液相で充填する必要がありますので、ポンベを倒立させて充填するか、サイフォン管付の冷媒ポンベから充填してください。

●操作弁を閉じたまま、必ず液側のサービスポートから液冷媒で封入してください。規定量が封入できない場合は、室外機のバルブを液側、ガス側ともに全開にした後、冷房運転を行いガス側(吸引側)サービスポートから封入します。この際も、ポンベからの冷媒取出しが必ず液相で行ってください。ただし圧縮機保護のため、ポンベのバルブを絞り気味にすると、液冷媒を霧状に変換する専用ツールを使用して、ユニットに吸引された時にはガス化しているように調整してください。

●冷媒の封入は必ずポンベを使用して計算封入してください。

●運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。冷媒不足の状態で長時間運転されると圧縮機の故障の原因となります。



この製品はフロン排出抑制法の第1種特定製品です。

●フロン類をみだりに大気に放出することは禁じられています。

●この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。冷媒回収するときは、フロン排出抑制法の基準に従ってください。

●冷媒の追加・回収量および出荷時と合計量をサービスパネル裏面の冷媒量記入鉛板に必ず記載してください。また、そのCO2換算値も記入ください。

●機器の修理、運転、調整などにより、冷媒の回収や充填を行い表示内容が生じたときは、冷媒量を再記載してください。

8) 断熱・防霜

(1) 冷媒配管(ガス管、液管共)の防露断熱工事を行ってください。

(2) 断熱材は120°C以上の耐熱性があるものをご使用ください。耐熱性が低いと断熱不良や電線劣化の原因となります。

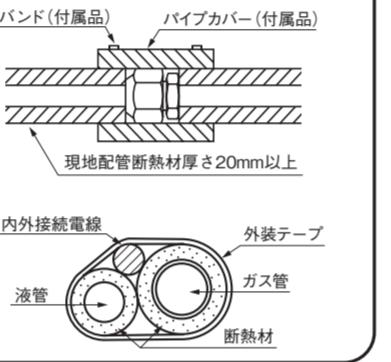
・防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家財等を濡らす原因となることがあります。

・ガス管は冷房運転時、配管に結露したものがドレン水となり水漏れ事故となることがあります。また、暖房時には吐出ガスが流れ、管表面温度が高温となるため、人に接触すると火傷などの危険があります。

・室内ユニットのフレア接続部分は断熱材(パイプカバー)で断熱してください。(ガス管・液管共に断熱してください。)

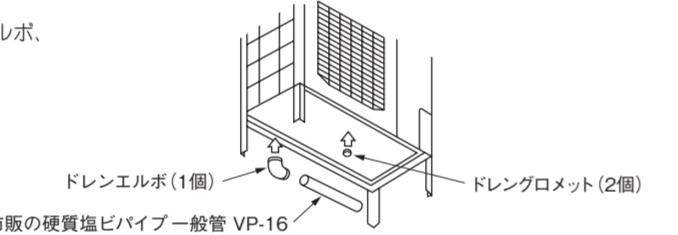
・断熱材はガス側・液側配管共両方に行ってください。その際断熱材と配管を密着させて隙間ができるないように接続線と共に外装テープで巻いてください。

・本工アコンはJ1S露水条件で試験を行なう場合のないことを確認しておりますが、**相対湿度70%を超える天井内等では、ガス側、液側配管共厚さ20mm以上の断熱が必要となります。**



3. ドレン配管工事

●室外ユニットからのドレンが問題になる場所では、別売品のドレンエルボ、ドレングローメットを利用してドレン配管を施工してください。



○室外ユニットの底板には凝縮水を排出する穴が3ヶ所あります。
○凝縮水を排水口などに導くときは平置き台(別売品)やブロックなどに載せて据え付けてください。
○図の様にドレンエルボを接続し、他の穴はグロメットでふさいでください。

4. 電気配線 電気工事の詳細は、室内ユニットの据付説明書をご覧ください。

●漏電遮断器の取り付けを必ず行ってください。漏電遮断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。

●室内外配線は同一端子番号を接続してください。

●配線は端子接続部に外力が加わらないように固定してください。

●削除箱にアース端子があります。D種接地工事を必ず行ってください。

●内外渡り線は必ず3心ケーブルを使用してください。シールド線は使用しないでください。

●電源・内外接続線 ●アース工事を行う際には、電源プラグを抜いた状態で実施してください。



漏電遮断器の誤動作を防ぐため、必ずインバータ回路用遮断器を使用してください。

●漏電遮断器の誤動作を防ぐため、必ずインバータ回路用遮断器を使用してください。

●漏電遮断器は端子接続部に外力が加わらないように固定してください。

●配線は端子接続部に外力が加わらないように固定してください。

●削除箱にアース端子があります。D種接地工事を必ず行ってください。

●内外渡り線は必ず3心ケーブルを使用してください。シールド線は使用しないでください。

●電源・内外接続線 ●アース工事を行う際には、電源プラグを抜いた状態で実施してください。

●漏電遮断器の誤動作を防ぐため、必ずインバータ回路用遮断器を使用してください。

●漏電遮断器は端子接続部に外力が加わらないように固定してください。

●